

## パーソナルデータ実証研究：採択テーマと委託先一覧

■採択テーマ：情報銀行間データ連携の実証と考察

■委託先：大日本印刷株式会社、富士通株式会社、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ

■内容：

現在は情報銀行事業における市場形成期であり、パーソナルデータの活用・流通の促進に伴い、情報銀行サービスが増加することが予想される。そして今後、市場成長に伴い、複数の情報銀行間に点在する生活者のパーソナルデータの統合連携や、サービス事業者の活用データの統合といったニーズの高まりが予想される。こうした情報銀行間の連携、互換性の獲得を円滑にするために、情報銀行システムプラットフォームの存在が必要になると考えられる。本研究においては、情報銀行プラットフォームを基盤とし、各社の情報銀行事業が展開されていく社会を前提とし、情報銀行間の連携実証、情報銀行プラットフォーム間連携の仮説検討を行う。

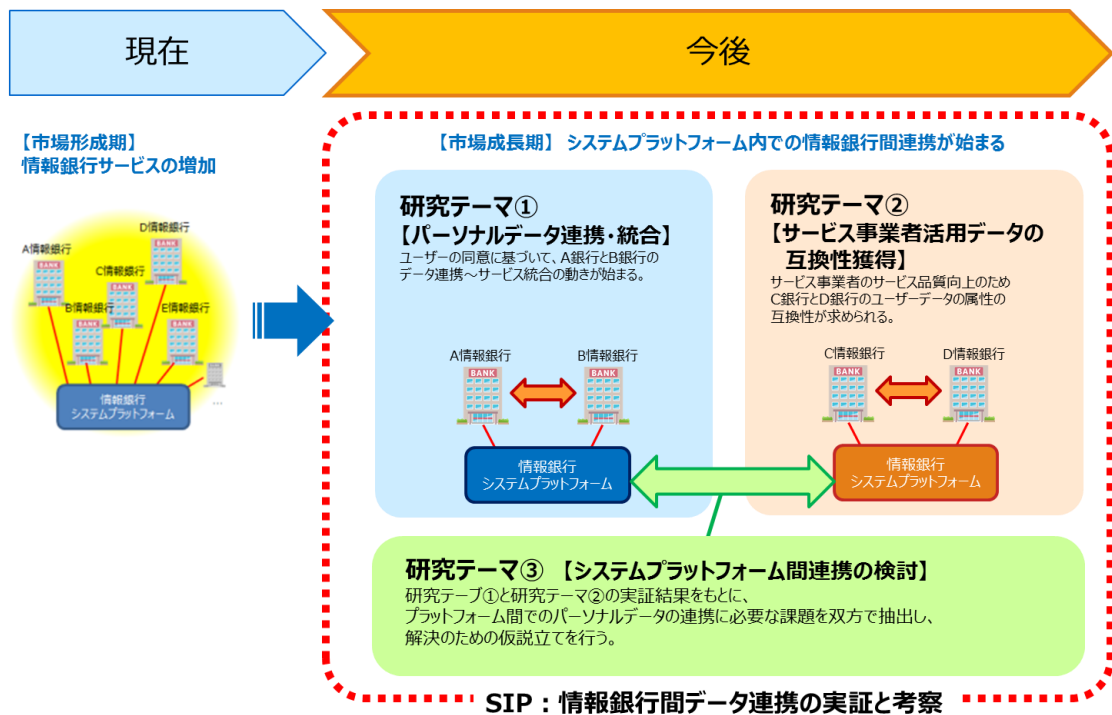


図1 今後の市場予測と本研究の今回実証範囲

■採択テーマ：個人起点での医療データ利活用の促進に向けた「医療版」情報銀行  
アーキテクチャの実証研究

■委託先：国立大学法人大阪大学

■内容：

医療データは要配慮情報とされ、慎重に取り扱う必要があり、電子化は進んでいるが、それぞれの医療施設内で利用されるだけで、施設外での利用は限定的である。一方、デジタルヘルスの可能性が示されており、また、こうした医療データはReal World Dataと呼ばれ、医薬品、治療機器の開発に役立てる動きが世界のトレンドとなっている。このように、医療データは、診療・介護に関わるデータ、健診データを、医療のための利用（一次利用）だけでなく、デジタルヘルスと呼ばれる従来の医療の枠組みの外での保健医療福祉サービスや、生命保険や自治体補助の給付等の個人向けのサービスでの利用（ヘルスサービス利用）がある。また、製薬企業、医療機器メーカ、研究機関等の、データ解析での利用（二次活用）への期待がある。受益者が支払い、全体のサービス体系を形成する必要があるが、1個人に対し多数の事業者が関わることから、医療情報銀行が個人の信託を受け個人のプライバシーを守りながら個人データを流通させる体制が必要と考える。また、医療データ利用事業者が、統一のルールに従って事業を展開することが、個人からの信頼を得ることになり、全体の利益に繋がる。本事業では、医療データを、個人を軸として集約し、個人のコントロール下で利用する医療データ利用サービスの全体像を描き、ステークホルダーを明確にし、その間の情報の流れ、お金の流れを明確にし、サービスモデルのアーキテクチャを構築することを目的とする。

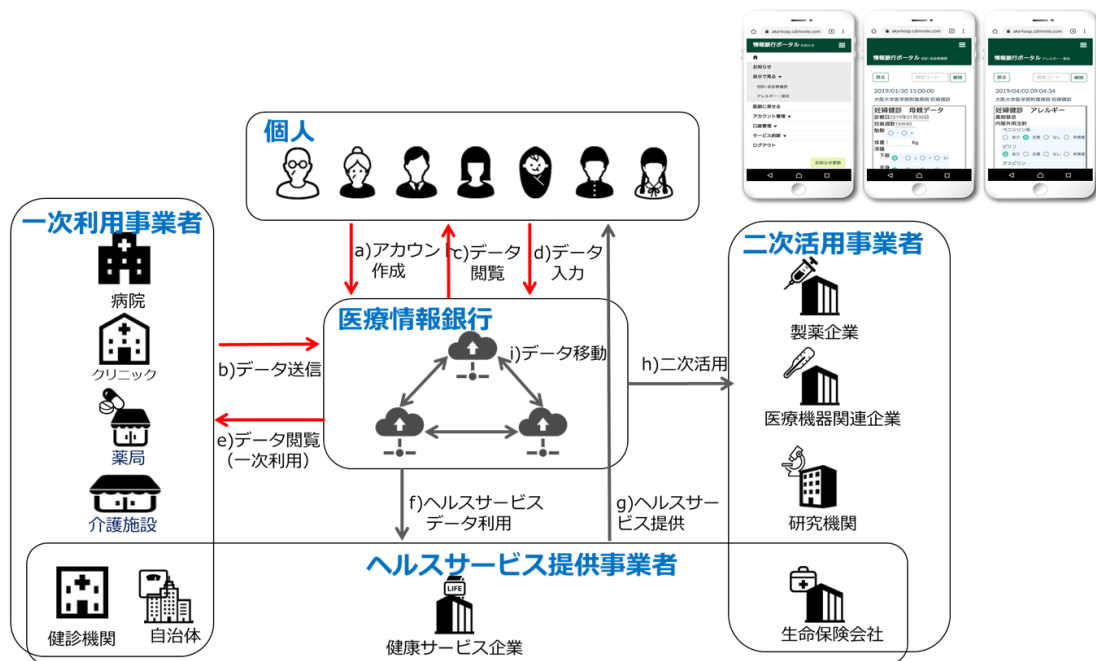


図2 全体アーキテクチャ

■採択テーマ：生体認証（顔特徴量）データの事業者間連携に関するアーキテクチャ実証研究

■委託先：日本電気株式会社

■内容：

本研究開発は、我が国の提唱する信頼おけるデータ流通ルール作りへの取り組みであるDFFT(Data Free Flow with Trust)の実現に必要な、生体認証データの事業者間連携における課題を、Society5.0リファレンスアーキテクチャの構成要素と照らし合わせて検討し、実フィールドにおける検証を通して持続可能で相互運用可能なアーキテクチャ構築に還元することを目指すものである。本プロジェクトにおいては、様々な場面で生体認証が利用されることを想定し、顔認証を複数事業者で連動して活用する実証を行い、関係する標準、規格、動向やユースケースの調査も踏まえ、企業横断でサービス展開できるインターフェース、標準化、データ流通ルール、制度、本人認証の在り方などの検討を通じ、アーキテクチャを設計・構築する。特に、社会的な信頼、消費者の受容性の拡大やその前提となるリスクの低減に資する事業者横断的な運用の在り方については中心的な論点としたい。

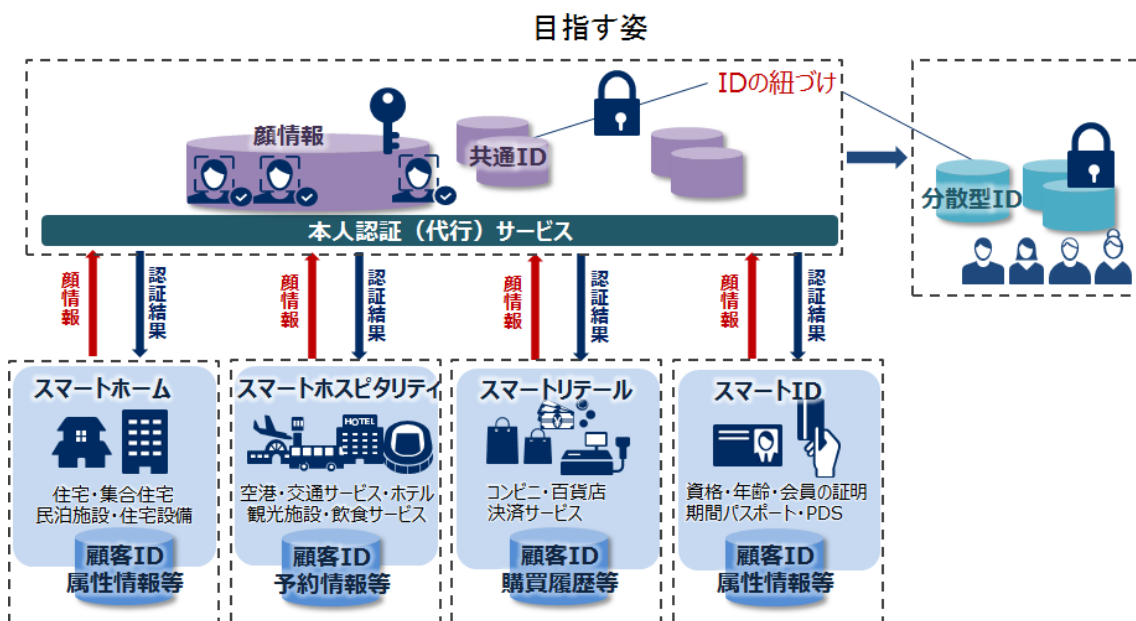


図3 顔照合の適用シーンと信頼獲得に向けた将来の方向性

■採択テーマ：横浜スタジアムを中心とした行動データ利活用のアーキテクチャに関する実証研究

■委託先：KDDI株式会社

■内容：

パーソナルデータの活用については、自らのデータがどのように事業者間で共有・活用されているかを事実上把握・制御できていないことからくる不安、またパーソナルデータが活用される便益を実感できない不満や不公平感が存在し、特に、個人の行動に関するデータは、提供に対して強く不安感を抱くデータとなっている。そのため、消費者が安心して行動に関するデータなどを提供し、事業者が安全にパーソナルデータを利活用できるようなデータ流通基盤・枠組みの整備が必要である。本研究開発実証は、データ流通基盤の整備に寄与するだけでなく、データを活用したエリアマーケティングなどによる需要の拡大や魅力度向上にも貢献することを目指す。

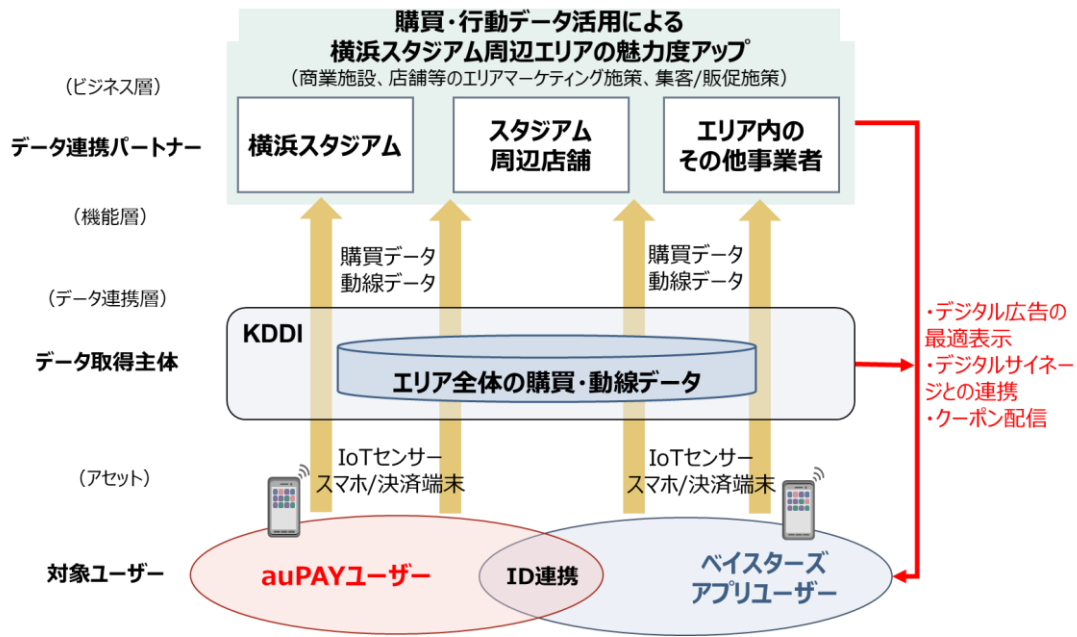


図4 本研究開発実証における全体像 (将来に向けた構想案)

■採択テーマ：トラストサービスに関するアーキテクチャとしての共通API仕様策定とその有効性に関する実証研究

■委託先：セコムトラストサービス株式会社、セイコーソリューションズ株式会社

■内容：

Society5.0やData Free Flow with Trust を実現するために、流通するデータの信頼性を確保する必要がある。アプリケーションサービスは、その信頼性について、ユーザが特に意識せず安全安心に利用できる環境が必要である。そのため、データの発出やアクセス先を確実に認証、認可し、なりすましを無くし、流れるデータの完全性を担保するためのトラストサービスを、アプリケーションサービスが簡単に活用できる環境を用意することが重要となる。そのためトラストサービスの相互運用性を確保し開発効率の向上をねらい共通API仕様を策定、実証し、具現化に向けて課題を整理する。

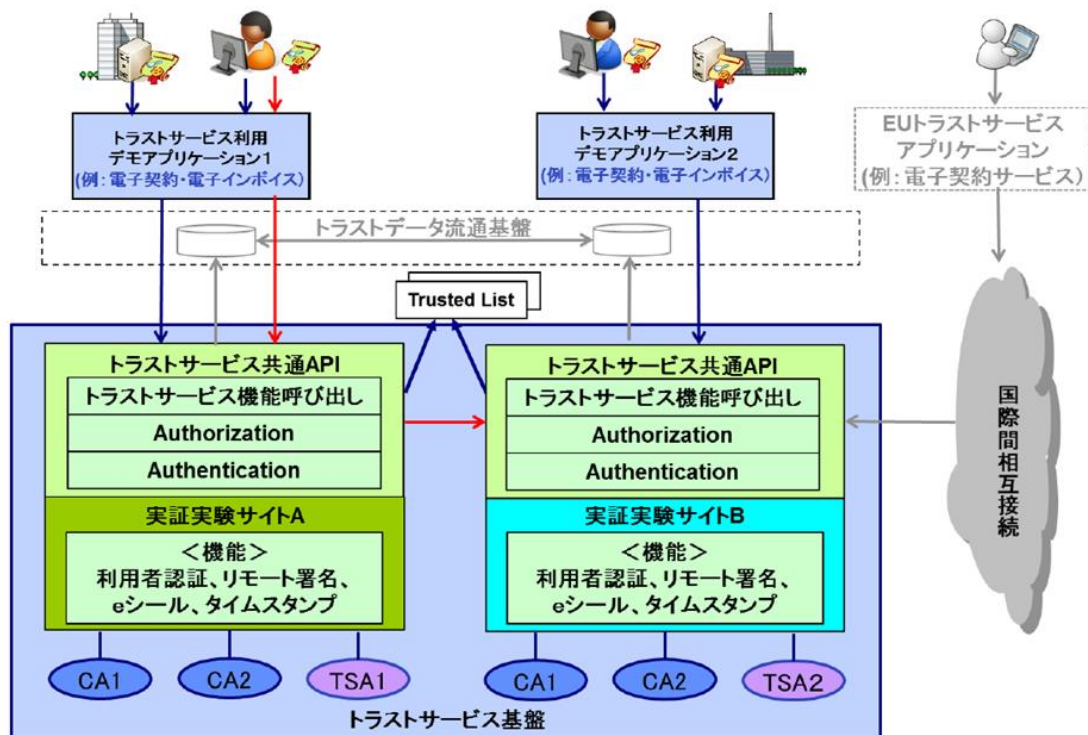


図5 実証実験のイメージ